

# 知る

## 市民に愛され続けて半世紀 2度の存続危機も乗り越え

### 前橋城の遺構現代に生きる

前橋市大手町。官公庁の庁舎が立ち並ぶこの地には、かつて徳川家康から「関東の華」と言われた前橋城が築城されていました。市街化とともに城の遺構は姿を消してきましたが、ただひとつ、趣向を変えた形で残る物があります。それは、城の周りを囲んでいた空堀。これは水を張らない窪地で、その深さは5メートルから6メートル。中央児童遊園はこの空堀跡に存在しているのです。

### 大博覧会の目玉の一つ

中央児童遊園は昭和29年10月1日に誕生。当時、前橋は市制施行60周年や周辺町村との合併を記念し、近代的な大都市へと発展していく足掛かりとして、大博覧会「前橋グラン

ド・フェア」を開催しました。大手町に造られた4つの会場には、1カ月の開催期間中に24万8,000人が来場。1日平均8,000人と、この驚異的な人数でした。

第2会場として造られた中央児童遊園はその目玉の一つ。面積は8,800平方メートルで、公式サッカー場のピッチとほぼ同じ広さです。堀の上の四隅に立てば、簡単に園内全体を見渡せ、多くの家族連れが詰め掛ける様子は、まさに芋を洗うよう。遊具利用券を求める人の行列は園の外にまで続き、迷子も後を絶ちませんでした。サルが乗っていない子供もたちから疑問の声が上がっていたお猿の電車には、フェア終了が迫る3日前から本物のサルが登場。電車の先頭にまたがるその姿に、子どもも大人も大喜びでした。

### フェア終了後木馬が登場

フェア終了後、次々と取り壊されていくほかの会場を横目に、中央児童遊園だけは児童厚生施設として残ることに。第1会場に設けられていた自動木馬2台は、中央児童遊園へ移設されました。新たに3台を加え、5台の木馬に乗れるもくば館が誕生。フェア終了後もこれを目当てに多くの人が詰め掛けます。

利用者は年々増え続け、開園10年後には年間100万人を突破。手ごろな価格で家族が楽しめる定番スポットとして、不動の地位を築いていきました。

### バブル到来以降2度の存続危機

昭和61年、日本の景気はうなぎ昇り。その波に乗って、全国各地に大型観光施設が次々と建設され、前橋でも一大事業が計画されました。

市制施行100周年を迎える記念事業として練られた「前橋公園整備基本構想」。これは、一体感ある大公園にすべく、老朽化が進む中央児童遊園を撤去し、跡地を広場にしようという計画です。この発表に市民は動揺し、その関心は中央児童遊園に。この年の利用者数は、今なお破られていない最高の141万6,707人にも達しました。バブル経済崩壊の影響を受け、計

画は錯綜。進行されることなくひとまず安心と安堵したのもつかの間、第2の危機が押し寄せます。

平成8年、赤城南面に大遊園地を建設する計画が浮上。中央児童遊園を移転整備する方向性が示されました。これには市民も寝耳に水。2年の調査期間中に寄せられた中央児童遊園の現地存続を願う市民の声は、非常に大きなものでした。市はこれを受け、中央児童遊園を大遊園地構想から切り離し、現地存続に方針転換。平成11年には、17年ぶりに遊具の入れ替えが行われました。時代に躍らされることのない市民の確かな思いが、中央児童遊園を存続危機から救ったのです。

### 運営と管理に民間の力を

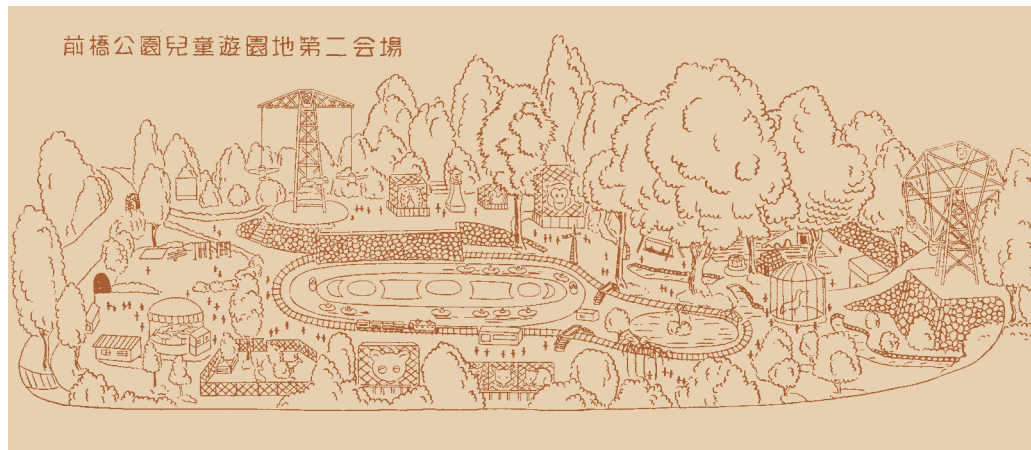
開園から50年。平成16年から中央児童遊園の運営は民間委託されました。民間活力を導入して市民のニーズに沿った運営を行い、サービスを向上するのが目的。このとき、愛称を公募し、郷土の詩人・萩原朔太郎の詩「遊園地にて」にちなんだ「前橋るなばあく」に決まりました。

平成18年からは、朔太郎を核に文化的なまちづくりを進めるNPO法人・波宜亭倶楽部が、運営だけでなく管理も「心が温まる大切な場所」をコンセプトに「日本一懐かしい遊園地」を目指しています。



## 現代に生きる時代の象徴 国の登録有形文化財に

るなばあくのもくば館と旧ラジオ塔が、国の登録有形文化財になることが発表されました。もくば館の木馬は、かつて全国各地の百貨店の屋上などで見ることができましたが、現存するのはるなばあくの5台だけ。全国の遊園地で活躍する現役遊具の中で初の登録有形文化財になります。ラジオ塔は、昭和8年、前橋公園内に設置され、塔の前にはラジオの音声に入る多くの市民の姿が。現在は園北側の高台に移設され、園内放送設備として活用されています。



上 入り口にあふれる人。奥に見えるのは飛行塔

左上 豆自動車と超満員のお猿の電車。高台の上からも多くの人が見物

左 当時の案内図。大型遊具は豆自動車、お猿の電車、飛行塔、観覧車、メリーゴーランドの5つ。シカやクマ、キツネ、サル、七面鳥、クジャク、水鳥などの動物もいっぱい